

平成 26 年度後期 大学院授業評価に対する教員からのコメント

研究科委員会

平成 26 年度後期終了時に実施した「大学院生による授業評価」の回収率は 69.2%でした。ご協力くださった皆様、ありがとうございます。大学院生から寄せられた意見の要約と、それに対する教員の回答を枠内に示しています。今後も、院生と教員双方の努力によって学習・教育の質向上を図りたいと考えます。

1. 大学院生自身の取り組みに関する事項

前期の経験を生かして先を読みながら学習に取り組めたという意見がある一方、多重課題のために不十分な準備状態で授業に臨んでしまった反省や、後期は実習に向けた準備も加わり想像以上に大変だったという戸惑いが述べられていた。また、主体的学習活動が尊重された課題を通して、学ぶことに際限がないことや学びたい気持ちが不変であると気づいたなどの実感も記されていた。

アンケートは半期を振り返る良い機会だと改めて感じた。院生が後期において、前期に引き続きあるいは前期以上に大学院での学習活動を経験して感じた戸惑いは自身が成長するために必要な一過程であったと思う。後期の授業で課された多くの課題や研究に対する取り組みを通して改めて実感できる学びもあったと考えられる。大学院での学習活動には主体性と自律性が求められることを意識しながら、今後も一層の努力を期待したい。学びには限りはないが、時間には限りがあるという現実のなか、質を追求する学び方を工夫していただければと思う。

2. 授業内容・方法に関する事項

プレゼンとディスカッション中心の授業は自分自身の学びを深めるうえで効果的だったこと、各科目の課題は概ね授業目的に沿っていたこと、様々な授業形態があることは受け止めつつ、教員の話し方や資料の示し方に対する要望が述べられていた。また、今回のアンケートにおいては、研究方法ⅢA に対する意見が多数寄せられた。

具体的な科目に寄せられた意見や要望は、真摯に受け止め、今後に向けて対応を行っていきたい。授業改善には院生と教員双方の努力が不可欠となるため、今後も積極的な働きかけをしてほしい。

◇研究方法ⅢA について

昨年度の反省を踏まえ、テーマ毎に講義・SPSS の演習・論文講義を一つのサイクルとして設定し院生の理解を深められるように授業運営に努力したつもりだった。しかし、レポート課題の設定等に関して院生に多大な戸惑いを抱かせる結果になったことについては深く反省したい。

◇研究方法Ⅲ B について

授業では、数回にわたり質的研究方法の基本的な考え方を紹介した。内容については、現時点の自分の研究に直ちに活用できない場合もあるかもしれないが、授業で学んだ研究に関する知識や考え方を状況に応じて主体的に役立てていける力を強化することも重要だと思う。また、看護研究における質的研究の評価基準として「現実との関連性」が問われているので、現場の課題解決に活用できる方法論として学習してほしい。

3. 学習環境に関する事項

一般入試に伴う学内立ち入り禁止区域や時間の周知時期、警備員の研究室施錠時間の厳守、SPSS など授業設備の充足、パソコンやプロジェクター機器等のメンテナンスの徹底、週末の印刷用紙やトナー切れへの対応、土曜日の図書館開館時間の延長（5 限まで授業がある場合に利用が制限される、集中講義の最後に課題が提示され有効利用ができず学習に多大な影響を受けた等の理由による）、自動ドア施錠後に図書館から研究棟に戻る際に不便であることが要望および検討事項として寄せられた。また、急な授業日程の変更に対して戸惑ったという指摘もあった。

- ◆一般入試の学内立ち入り禁止については、今後は 10 日前には周知することとする。
- ◆研究室および大学建物への出入り口の施錠については、学生便覧に記載している時間に施錠するように警備の体制を徹底する。今後、早めに施錠され困ることがあった場合には、その都度、教務課に申し出ていただきたい。
- ◆SPSS やパソコン、講義室のプロジェクター等は、講義に支障がないように定期的な整備を行うこととする。
- ◆院生研究室用の印刷用紙やトナーについては、今後、院生研究室内に予備を置くこととする。予備を使用した場合には、必ず教務課に連絡をし、予備を切らさないようお願いしたい。
- ◆土曜日の図書館開館時間の延長については、早期実現に向けて検討する。
- ◆授業日程の変更は、やむを得ない事情を除き、原則として 1 か月前には周知することとする。

4. 総合的な評価に関する事項

自分自身の課題に向き合いながら前期よりも学問探究はできているという肯定的な意見が多かった。具体的には、大学院での学習が視野の広がりをもたらしたこと、一つ一つを深く考えるようになったこと、先輩院生との交流により大学院で学ぶ意義が前期よりも明確になったこと、複数の教員からの助言により自分の研究の方向性が徐々に見えてきたこと、などが記述されていた。また、発言のしやすさ、社会人として学ぶための環境づくりに対する感謝も述べられ、大学院生として成長していきたいという意志も記されていた。

前期に引き続き、大学院での学習活動を進める過程で視野の広がりや深まりを実感している院生が多かった。この気持ちを大切に、今後の学習や研究活動に取り組んでいただきたい。助産師課程の院生は、2 年次にも複数の実習科目を履修することになっている。研究を進めるうえで、限られた時間をもっと有効に使う必要性も生じてくるため、これまで以上に計画的に取り組んでほしい。

また、働きながら学ぶ院生への配慮について好意的評価がなされたが、そうではない院生との間に不平等が生じないような配慮の必要性についても意識しておきたいと考えている。

5. その他

研究計画発表会等において、10 名の発表を 1 日で行うことに対して改善を求める声が寄せられた。

研究計画発表会等を 2 日間に分けて行うことは時間割上無理であるため、同日の午前と午後に分けて開催することで対応したい。